

SSKS 療育ねっとわーく川崎

2019年10月20日発行
No.224 (2800部)
NPO法人
療育ねっとわーく川崎
発行者 江川 文誠
編集者 谷 みどり

由の息子は基本的に一階で生活。当日は早めに二階に家族全員で移動し、避難リュックだけでなく、数日分の食料と飲み物、衣類、子供達のアルパムなども持ち上がった(避難リュックは、

と一緒で安心だった。ヘルパーさん
Cさん・二階建の我が家、肢体不自由の息子は基本的に一階で生活。当日は早めに二階に家族全員で移動し、避難リュックだけでなく、数日分の食料と飲み物、衣類、子供達のアルパムなども持ち上がった(避難リュックは、

小学校へ避難しようと考えたが、車いすで行くには遠く迷っていた。相談員さんに相談し、近くのショートステイに緊急で入ることができた。リフターもあったのでトイレも心配なく、食事もできた。
Bさん・避難指示が出たので、怖くなってヘルパーさんと一緒に小学校に避難。応対してくれた職員から、体温調節ができるかどうか聞かれ、難しいと答えると、空調設備のある3階の部屋に案内してもらえた。ヘルパーさんと一緒で安心だった。



台風19号は、川崎にもかつてない被害をもたらしました。当日、みなさんがどのように動かれたのか、そして今後どんな課題を感じられたのか。お話を聞きました。

台風19号は、川崎にもかつてない被害をもたらしました。

Dさん・川の近くに住んでいる。子供がいるので、避難指示が出る前に、指定の小学校に避難。すでに、体育館と1階の校舎はいっぱい。2階・3階の校舎も開放されたが、夜には廊下まで人で埋まった。「停電すると、水道も出ない」とのアナウンスがあった。そもそも避難所が、浸水指定区域なのが疑問。避難時、毛布の配布は終了。水の配給はなし、とにかく持参したものでしのぐしかなかった。バスタオルを敷いていたが、床の上は痛くて寝れなかった。

娘と一緒に前日に中身を一つ一つ見直し、不足の物や電池切れ、避難グッズの使い方など確認した。ピーク時は、自宅から数メートルの用水が氾濫し、敷地一歩外は浸水、水の怖さを実感。台風のように事前に情報があり、避難まで猶予がある場合などは、より安心に過ごせる避難場所を予め調べておき、選択肢を持つておくことも大切だと感じた。

娘と一緒に前日に中身を一つ一つ見直し、不足の物や電池切れ、避難グッズの使い方など確認した。

Fさん・周りの人たちは、みな近所の学校に避難していた。障害のある息子を連れてはいけなかったので、万が一の時はあきらめるしかないのでと考えさせられた。

Eさん・目の前が川。日ごろから、ハザードマップを確認し、浸水区域であると知って備えていた。11日の台風の予報を見て、前もって必要なものは2階にあげた。食事の用具も持っていた。娘を垂直避難して2階で過ごした。自分たちで対応ができそうだったので、要援護者として町会の支援は必要ないことを伝えようと思ったが連絡先が分からなかった。かわりに11日うちに、区役所の危機管理室に連絡。障害ごとの対応をしていると聞いていたので、当事者側から連絡するのも大事だと思った。災害が起こる前に、避難場所や対応について、聞いておけるといいと思った。当事者家族だけでなく、支援者も逃げてほしいと思っている。

今月号の目次

- 1 こんなときどうするの.....
- 2 障害者差別解消法(当事者家族から).....
- 3 要援護者といわれる私たちの防災.....
- 4 お知らせ.....
- 5 療ねひろば.....
- 6 ノリさんと金子くんの対談「れいわ新選組」ってどうなのさ【後編】.....
- 7 私の人生バラ色.....
- 8

(本誌5・6・7・8面は会員のみに郵送)

年に一度の地域の福祉まつり

ウェルフェス

2019 雨でも開催

おいしいもの
たのしいことがたくさん♪
遊びにきてね♪

12月7日(土)

11:00~15:00
飲食は売り切れ次第終了となります。

★きたのば & はっぴわーく

- ◎ 無添加てづくりジャム
- ◎ 手作り製品 販売
- ◎ 焼き芋や野菜、クッキー、ハーブティー等

★工房和丘

- ◎ 手織り布作品展と販売

★くるみ

- ◎ 地域交流会

★ Rond 2号館 外

- ◎ Rond模擬店(カレー、お弁当)
- ◎ 新企画! みんなの防災!

★ひこばえ

- ◎ パン

人気だから早いもの勝ち!

★ Café POP!

(サポートセンター)

- ◎ まちづくり協議会企画「△□ワークショップ」
- ◎ CafePOP!も元気に営業!

布をつないで、Xmasツリーをつくろう!

疲れたらPOPでコーヒーブレイク

★ Rond 2号館 2F

- ◎ みんなの演芸会、作品展♪

みんなで歌って、合奏しよう
今年はスペシャルゲストが来ます!

★ いっぱ舎

ボッチャ!!!

車イスの方でもおこさんでも参加できます!

スタンプラリー!

スタンプ3つ集めてね
お楽しみプレゼント
もらえます!

話題の足こぎ車いすを試してみよう!

COGY

★ ハッピーテラス

- ◎ まと当てゲーム♪
- ◎ 車いす体験!

問合せ: NPO法人療育ねっとわーく川崎 サポートセンター 七川・谷 TEL044-455-7468

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond
TEL 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: tani@rond.jp http://rond2981.jimdo.com/
(会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2500円 賛助会費 一口 1000円

会員・賛助会員募集

発行所 郵便番号一五七〇〇七三 世田谷区砧六二六二一
特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会 定価一〇〇円



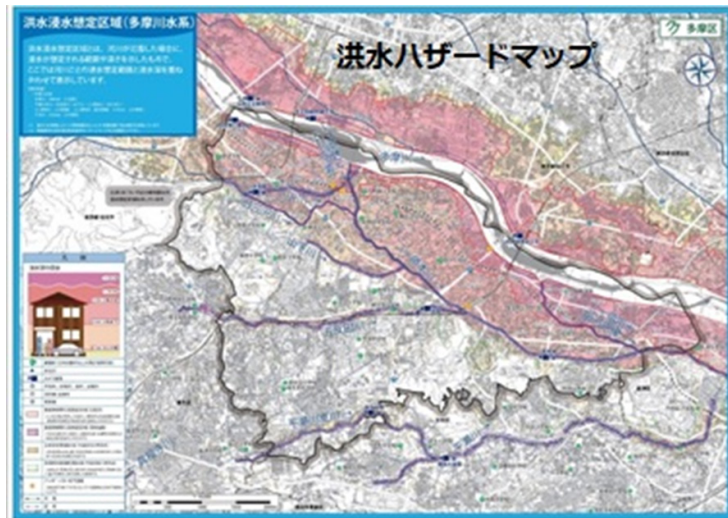
要援護者といわれる私たちの防災

のり せいどじょうほう
紀さんの制度情報

先の台風19号は、各地に甚大な被害をもたらしました。被災された方には心よりお見舞い申し上げます。

皆さんも様々な行動をとられたことと思います。そのような中で要援護者というくりでの私たち障害者の防災について考えていきたいと思います。

今までもハザードマップや避難所情報、伝言ダイヤルなどお知らせしてきましたが、これらはみなさん区役所か「川崎市防災情報ポータルサイト」より再度ご確認ください。（<http://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/index.shtml>）



一例として、洪水ハザードマップは河川が氾濫した場合に浸水が想定される範囲や深さを示したものです。

ハザードマップは他に地震・水害・土砂・基本的（避難所、応急給水拠点、ゆれやすさ等）と災害別と基本情報となるものが整備されています。

ハザードマップのみは ↓

<http://www.city.kawasaki.jp/500/page/0000076482.html>

「災害時要援護者のための防災行動ガイド」

この「災害時要援護者のための防災行動ガイド～災害から身を守るために～」は、災害時要援護者と言われる高齢者、障害者、乳幼児等が、災害時に身を守るためにどのように行動したらよいか、また、家族や地域でどのような助け合い体制をとればよいかを理解していただき、災害に対する準備をさせていただくことを目的として作成しています。

障害等の特性ごとに留意していただくポイントを掲載しています。

<http://www.city.kawasaki.jp/350/cmsfiles/contents/0000033/33279/guid-201503.pdf>

市の概要によると上記の内容で、実際に障害別にも書かれてもいます（現実的かという疑問符がありますが）。ただ、このように要援護者に特化したものであっても、基本は自助です。災害時には支援者も被災者ですので、わからなくはないですが、医療的ケア等が必要で特に停電時に電源がないと命に関わる方などに対して、自助で予備電源を用意しておくというのは、いささか無理があると思います。こういう部分については公的補助が必要だと考えます。

災害はいつ起きるか分からないですからこういうものも必要なのですが、一般的に障害者への理解がまだまだの状況ですので、こちらの施策も充実していただきたいです。

災害別の想定を

災害時には市の想定マニュアル通りにいくはずもなく、特に私たち障害者が指定避難所に避難して、いつ開設されるかも分からない二次避難所への移行を待ち続けるのは現実的ではないと思います。

地震、洪水、土砂といった災害別の想定をして、ありきたりですが“日頃のそなえ”を十分にということにつきるのだと考えます。では要援護者と言われる障害者の防災ではなく、一般的だと言われるかもしれませんが、いわゆる健常者という方以上に災害別の想定と準備が必要なのだと思います。



「11年前、娘は806gで生まれ、約1年間NICUでお世話になりました。当時は、私も結婚して引越してきたため実家の家族や友達もおらず、子育ても初めてな上に娘が気管切開していて体調が心配なこともあり、とても不安な日々を過ごしていました。恥ずかしながら、『わかってくれる人は家族以外ない』と考えて孤独でした。それでも娘のかわ

障害者差別解消法（当事者家族から）

いい笑顔を見て、この子の笑顔を守りたい、いろいろな経験をさせてあげたい、お友達と遊んでほしい、強く大きくなつてほしいと思ひ、ひたすらがむしやらにがんばってお友達をつくらうとしたり、吸引セットをかかえて、子育てサークルに行ったりしていました。ですが、いつも不安で家族で過ごす時間だけが唯一の幸せだったように思います。

娘を保育園や幼稚園に行かせたいと考えはじめたころ、ある方に「うちに見学においでよ」とお誘いいただき、未就学児を対象にした施設へ伺うことになりました。娘の楽しそうな様子やスタッフのみなさんの優しい言葉がけで、心が溶けたようにあたたかい気持ちになったことをよく覚えています。

初めてこちらでお世話になった日、靴箱にわんちゃんマークで娘の名前を準備してくださっていたこと、しばらくして送迎車に乗せてい

ただくことになって見送った後のさみしい感じや、でもものすごく嬉しい気持ち、連絡帳のコメントにいつも励ましてもらい『がんばろう』と思っていたこと、作品を持ち帰ったときの嬉しさ…1年間という短い時間でしたが、娘と私たち家族にとっでかけがえのない、あたたかで幸せいっぱい時間でした。

今年7月からは、私もこちらの法人で働かせていただけることになり、娘がお世話になったときに感じた温かさや幸せな気持ちがどこから

きていたのかが、日々じわりじわりとわかっていくような気がします。障がいのある子どもたちのお母さん、ご家族とともに、この法人を立ち上げられた代表の方、スタッフのみなさんのあたたかさや熱意、誠実さや真摯なお気持ちで、全てのはじまりで、そして、同じまたは似ているの方々がこの法人を作り、その全てのみなさまで娘や私たち家族は大切にしてくださいましたことに気が付けたように思います。」

（まりちゃんの母）

